

議事録

1 日目の流れ

案内 澤邊裕子 交流学习の研修
 中川正臣 言語教育におけるインクルージョンを考える会
 挨拶 ミン・ビョンウク (韓国文化院韓国語事業担当)

第1セッション 生徒が主体となる授業づくり

- ・ JAKEHS と韓国日本語教育研究会の連携 山下誠
- ・ 韓国における日本語授業の実践から 「生徒が作る日本語レシピ」 권가연

第2セッション 外国語教育の目標設定の方法と課題

- ・ 外国語教育強化地域拠点事業における単元指導案作成の試み (神奈川県) 山下誠、遠藤正承
- ・ 観点別評価と CAN-DO リストによる年間シラバス作成の取り組み (大阪府) 李貞榮、木村春菜

全体討議 1

案内 竹内じゅん 高校生の韓国語学研修(留学)と研修によるメリット
 一日目終了 懇親会 韓国の教員との交流

第1セッション 生徒が主体となる授業づくり

司会 吳文淑

■ 山下誠 (神奈川県立商工高校) 「JAKEHS と韓国日本語教育研究会との連携」

1999年から当時のヨ・ソング先生と山下先生の交流から始まった。

韓日研との連携が行われるようになった経緯を説明

今回、韓日研から参加された3人を紹介

■ 권가연 (계성고등학교) 「生徒が作る日本語レシピ」

生徒たちが無気力で、なかなか授業に集中もしないという背景があり、<①幸せになる日本語の授業をしよう、②進路に関係できる授業にしよう、③積極的に参加できる授業にしよう>を目標に進めた。

具体的に下記の5つの項目を通じて学ばせた。

- 1) 夢に向かって飛んでいく日本語 (自分の関心のある地域や、店を調べて紹介させる)
- 2) 広告を使う日本語 (教科書に出てくる単語と関連のあるワードの出ている広告を探す)
- 3) ゲームで学ぶ日本語 (ゲームを通して、退屈させることなく語彙力を増やす)
- 4) 文化から学ぶ日本語 (着物体験をしたり、お守りを作って周囲の人にプレゼントさせる等)
- 5) 料理から学ぶ日本語 (日本の料理を紹介し、それを作るのに関連する単語を教える)

授業の前に一度自分の家で作る練習をして来たりである姿を見せたり、積極的に予習をする姿も見せた。

Q 生徒の動画の発表はいつ作らせるのか。

A 宿題で課題でやって来る。できることは学校でさせることもある。

スマートフォンは学校で朝集めるが、許可を得て授業で使えるようにする。

Q 授業の時間設定はどのくらいか。

A ゲームは10分、文化は5分以内等、生徒が集中できる時間を考えて取り組ませている。
評価のなかで、遂行評価（パフォーマンス評価）の部分が高いので、生徒は一生懸命取り組む。PPT や動画作成の宿題はそんなに苦ではない様子である。
映像やPPTの作成は韓国生徒は教師よりも得意である。

Q 生徒のレベルは？

A 前身は女子校だが、昨年より共学になった。基礎学力低いのは5~7人。授業30%が集中する、30%普通、40%参加するだけ。
日本語と韓国語を混ぜた「ハンボノ」でやっている。できるだけ日本語を使わせる工夫をしている。
単語レベルでも構わない。基本表現をまずは集中して行う。

Q パフォーマンス評価、生徒の内的変化について

A 授業を聞いていなければ。聞く態度も成績に入る。生徒同士で話をしているときには、話を最後までさせるようにしている。

Q 男子生徒が多い理由？先生が中心の授業もあるのか。

A 男女別のクラス編成。

何か体を動かす活動を考えている。川柳を教え、オリジナルを考えさせる、広告を持ってくる、導入で想像させた後、短い説明で終える。ゲームで導入することもある

Q 教科書の使用はどの程度？難しい言葉もあるのでは？日本での韓国語教育にどう生かすか？

A 教科書の表現から、どうすればいいかを組み立てる。簡単な表現を使う。

第2セッション 外国語教育の目標設定の方法と課題

<多言語連携による単元指導案作成の試み — 神奈川県>

■ 山下誠（神奈川県立商工高校）

多言語連携による単元指導案作成の試み — 文科省外国語教育強化地域拠点事業の指定を受けて —

外国語教育強化地域拠点事業

H29～ 英語以外の外国語についても拠点を指定し研究開発を支援（中、韓・朝、仏、独、西、露）

H28 12月 中教審の答申から 1000万円の事業

復活したもの

2002年 韓国朝鮮語（大阪・鹿児島）

2006年 10年間途絶えていた。学習指導要領の改訂を目指して行うもの

外国語学習の目標としての5領域

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」（発表）「話すこと」（やりとり）が入った。

CAN-DO リスト

バックワードデザイン（逆向き）

ゴールから設定する 2000年代 アメリカから

外国語学習のめやす（2012年に完成したもの）とリンクしている。

先進的な取り組み

既存の単元指導案の分析、整理して再構築すればよい

単元指導案の概要

- 1) 単元名
- 2) 実施するクラスの状況等
- 3) 単元の目標
最初にこの単元終了時にできるようになるコミュニケーション活動
(例) 街の案内ができる、姉妹校生徒にプレゼンができる
知識・技能、CAN-DO リスト, 思考力・判断力・表現力, 学びに向かう力
この単元で参照する既習事項
文化と社会への気づきのポイント
- 4) 単元の評価方法
形成的評価, 総括的評価

■ 遠藤正承 (神奈川県立翠風高校) 生徒が主体的に学ぶ韓国語授業をめぐって —2017年度「韓国朝鮮語Ⅱ」における単元指導案作成の試み—

1. どのような授業をめざすか

五領域を意識—従来の4領域の話すことが、世界的な流れの中で、話すこと(やり取り)話すこと(発表)に分かれた。

- ①生徒が主体的に取り組める授業
- ②生徒自らが考えることができる授業
- ③生徒自ら学ぶ意欲を持てる授業

2. 授業

- ①私に関心のある人を紹介する
→ 恩師の紹介 チェ・ゲバラ AAA チャオリン(中国の女優)
単元の評価方法 総括的評価
韓国語そのものだけでなく、自分の身の回りにも気を配る
- ②進路を語る

3. 課題

- ①今回はⅡ(2年目)の授業であったが、Ⅰであればどうだったか。
- ②進路を語るのが億劫な生徒集団であればどうだっただろうか。
- ③使用可能な既習事項の提示の問題
- ④韓国語の使用頻度も増やす必要がある
- ⑤アイコンタクト等の指導

山下誠

遠藤先生の実践は、パフォーマンス課題のあるもの
2年目の生徒で前年は文法等を扱い済みである

英語での試みもあり (例) 京都の高校のシラバス S高校
年間5つのパフォーマンス課題が設定されている。
下位目標

スペイン語チームの例の紹介

ドイツ語チーム 学校紹介をパフォーマンス課題にする

フランス語チーム 自分の住んでいる街のことをフランスの姉妹校の生徒に紹介する。

中国語チーム ショッピング 自分の欲しい服を伝え買うことができる。

■ 李貞榮（大阪府立桃谷高校）

韓国朝鮮語のゴール目標など

専任9校（大阪・兵庫）生徒や課程が多様であるため、ゴール目標が多様である。
形態・単位数、対象生徒、使用教科書・副教材、ゴール目標などを説明

■ 木村春菜（大阪府立桃谷高校）

韓国朝鮮語入門のシラバス設計の試み

— 「桃谷高校通信制の課程」の課題を踏まえて—

通信制課程、桃谷高校3部、
韓国朝鮮語入門、シラバス、学習の活動説明
今年度のシラバスから（昨年度作成）観点別評価を入れたものを作らなくてはいけなくなった。

観点別評価とは？

【全教科共通】

- A：関心・意欲・態度
- B：思考・判断・表現
- C：技能
- D：知識・理解

【外国語科の観点】

- a：コミュニケーションへの関心・意欲・態度
- b：「外国語表現の能力」
- c：「外国語理解の能力」
- d：「言語や文化についての知識・理解」

桃谷高校の通信制課程に集まる生徒の現状から、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」や「外国語表現の能力」を育て、評価するには限界があり、悩みであった。

その代替に、「書くこと」で表現させたり、「話す」課題に関しは、担当者の前で発音及び会話することで、評価した。

Q CAN-DO との整合性もあるが、（職業・進路について）「～ができる」ではなく、「～について考える」くらいでもよいのではないか。（CAN-DO の弱点ではないか。）例えば、「～になりたい」の例で、本当はなりたくないのに言わされている場面もあるのでは、韓国語を使うことが目的なのか。

A 生徒自身が自分のことを語るのは難しいのでは？自分が何をしようとしているのかが分かる。韓国語で語ることで厚みが出てくるのではないか。進路中心？韓国語中心？どちらともいえないのでは、その両方ではないかと考えている。

A 人と関わることに慣れてほしいという教師の願いがある。しかも、韓国語で。本人の自己肯定感に繋がればよいのではないか。場面寡黙の例として日本語では話すことができない生徒が韓国語では話すことができた。

全体討議

司会 田附和久

研修第1日目討議内容

A グループ

- ・シラバスは教師を縛るもの？学びを豊かにするもの？
- ・韓国語で進路を語る 自己目的化？ 母語以外の言語で語ることで違う視点、姿勢を獲得できる
- ・相互評価の目的は？方法は？
- ・プレゼンテーションには対象言語の前に母語での表現力が大切
- ・プレゼンには、話す力と書く力
- ・韓国の日本語教科書は機能中心、日本の韓国語教科書は文法中心
- ・複数の観点で生徒を見るのは大切 評価の実務は煩雑
- ・外国語教育強化事業は、本気のシラバスづくり

- ・ミサイル問題による交流中断

Bグループ

－国際交流について

- ・日韓には時差もないので高校生の交流ができればよい。
- ・両国の学生のモチベーションを上げる問題。
- ・日韓交流すればモチベーションが上がる。
- ・言葉が通じなくても交流できる良い例として「ダンス！ダンス！ダンス！」がある。
- ・4泊5日で日韓協力しながら一つの作品作り上げていくのでとてもよい。

－文化体験について

- ・韓国文化院。韓国教育院では様々な韓国文化を体験させるプログラムを行っている。
- ・同好会などを作ってサムルノリを教えている教師もいる。
- ・教師は語学だけでなく文化を教えられる力もつけていかなければならない。

Cグループ

－韓国語教育の対象が様々であることを考えるべき

- ・「めやす」は平均的な子供たちを想定して作られていることへの反省。
- ・「平均的」ではない対象にたいする関心が高まっている。(例えばコミュニケーション障害のある者、多文化の家庭、性的マイノリティーなど…)

- ・ユニバーサルデザイン、インクルージョンの観点からの教育が必要。

－評価について

- ・韓国ではテストや作品、発表に対し教師が一方的に評価をすることは悪い評価方法とされている。教師が評価の基準を示し、生徒間で相互評価させるが誰が誰にどんな評価をしたかは伏せて評価の基準とする。
- ・アセスメントの語源は「寄り添う」という意味。生徒に寄り添う評価をすべき。
- ・生徒自身が自己評価する方向に行けばよい。教師が評価を下す前に生徒が自己認識をする過程が必要ではないか

－韓国語教育の目的について再考が必要

- ・対象は様々だが共通した大きな目的を見いだせないだろうか。
- ・外国語学習者の学びの目的は国際的コミュニケーション。そこから離れられない。しかし高校、大学などの教育現場で統一した見解を示せていない。

Dグループ

- ・韓国・朝鮮語は学校科目である。
- ・評価の方法は観点別評価になった
- ・韓国語が「分かる」から「発信する」へ
- ・韓国では歌を教えることで日本語を教える「거꾸로 수업」などの方法も取り入れられている
- ・韓国では日本語学習者が増えている一方、수능では簡単だという理由からアラビアを選択する生徒が70%を占めることもある。
- ・指名されたらパニックになるなど、コミュニケーション障害がある生徒には英語教育で行われている方法が効果的（役を与え、その役になり切って表現させるなどの方法）

2 日目の流れ

案内 민병욱 피ョンチャンオリンピック関連

第 3 セッション 東京都の外国語教育行政と韓国語教育

- ・オリンピック・パラリンピックにむけた言語教育行政 黒澤、水口
- ・都立杉並総合高校にける中国語、ハングルの必修選択化 武井

挨拶 東京教育院 院長 유호선

韓日研の参加者 여선구, 곽영숙, 권가연

全体討議 2

JAKEHS 総会 活動報告、会計報告、次年度活動計画

閉会

第 3 セッション 東京都の外国語教育行政と韓国語教育

司会 黒澤眞爾

<オリンピック・パラリンピックにむけた言語教育行政>

■ 黒澤眞爾 (関東国際高校)

JAKEHS ができて再来年で 20 年、ふりかえり

英語以外の外国語の重要性

東京オリンピックとパラリンピックをどう迎えるか? (動画)

■ 水口景子 (国際文化フォーラム)

東京都の多言語教育推進

JACTFL (日本外国語教育推進機構)

東京都長期ビジョン : 都立高校において英語以外の外国語 (中・仏・独・韓・露・伊) 選択科目の実施拡大や異文化交流などを行う外国語部活をするなど、多様な言語が学べる環境を充実し、国際社会で活躍する資質を高めていく。

グローバル育成計画 20 : 11 月に素案発表、2020 にひっかけ 20 の素案を発表

韓国語に関係あるものは、次の 3 つ

- ① 持続的国際交流の推進 姉妹校交流推進校は 50 校。
杉並総合は、中・韓 今年度推進校指定。韓国の美林女子高と交流決定
- ② 世界友達プロジェクト 東久留米総合高校は韓国と。来年度から韓国語授業
- ③ 英語以外の外国語科目の充実 29 年度は 57 校、7 言語 順次拡大検討
語学部活動等の支援 授業はだめだけど部活ならオーケー

教員確保の問題

韓国朝鮮語の免許を持っている教員必要、育成も急務

東京都教委への働きかけ ー 特別免許状、臨時免許状

メディアを通じた意見発表 ー 武井先生の記事掲載 (10/28 朝日新聞朝刊)

<都立杉並総合高校にける中国語、ハンゲルの必修選択化>

■ 武井一 (杉並総合高校)

杉並総合高校に外国語必修化とその問題点

偏差値 50 ぐらいの学校

2016 年度入学生までは

2 年 ハングルⅠ 2 単位—系列選択科目 韓国・中国・スペイン・フランスより選択 (3 年次も履修可)

3 年 ハングルⅡ 2 単位—自由選択

2017 年度入学性からは

1 年 ハングル基礎 1 単位—必修選択

2 年 ハングルⅠ 2 単位—1 年生のとき中国語選択者のみ

ハンゲルⅡ —1 年生のときハンゲル基礎選択者

3 年 ハングルⅡ 2 単位—従来のハンゲルⅡ

きっかけは、2015 年、前校長が日韓校長プログラムに参加したこと

1 年次から英語以外の外国語に触れさせたい、国語の時間を割いて外国語に

最初は韓国語、中国語、フランス語、スペイン語から選択を考えたが、中国、台湾、韓国は国際交流の機会が多いから韓国語と中国語の 2 つで始める

国際交流盛ん オーストラリア、台湾、韓国 (ミリム女子高校)

問題点 1 授業運営

選択必修 →他教科・科目と同様

学習動機が薄い生徒も少なくない

問題点 2 授業構成

週 I 時間では 1 学期で文字・発音きちんと定着させるには時間が足りない →近ければ、通じればよし

問題点 3 教材

3 年間で 1 冊にしてほしい→『チャレンジ韓国語』入門の生徒がしんどい

→サバイバル韓国語の教材の作成要

→ハンゲルから入るのが妥当なのか?

問題点 4 人材発掘の必要

免許があっても失効している

免許に制限 (音楽ではだめ、国語、外国語の免許要)

時間数が少ないのでお金にならない

学校設定科目、16 時間の時間を確保しなければならない→専任の確保が難しい

全体討議 2

司会 山下誠

各チーム 6 項目について検討&発表

A グループ

—国際交流について

非常勤としては交流を担当することは難しい。立場に差があるので正教員に期待する

- 文化学習について
東京の方は東京教育院に依頼すれば出前授業をしてくれる
- シラバスについて
目的以外の部分で成果を見せるのが大事。他人は内部内容までは知らないから
多様化していく社会で適応して世界で生きていける力をつける
- 評価について
先生にもらったフィードバックが次の学習の動機付けになるように
- 学者の多様性について
配慮が必要な生徒だけを特別扱いするのはよくない
- セッション3について
管理職をつなげるのが重要だ

B グループ

- 国際交流について
形式的な交流と韓国語学習が必ずしもリンクするとは限らない
- 文化学習について
文化院、教育院の出前授業は動機付けにもなる
予算を要求することも必要。各自治体国際交流会などの期間を利用しよう
教育院お支援は各地域の教育院によって違うので地域格差がある
- シラバスについて
文化学習や国際交流をするのに既存教科書では対応できないので、
国際交流を前提にした教科書がほしい
- 評価について
韓国の日本語教科書を利用しよう。韓国の評価方法も参考になる
- 学者の多様性について
意思疎通が難しい生徒などについての研修が必要
生徒の情報が非常勤には共有されない学校もある
- セッション3について
免許の条件を緩和すると発達障害に対する配慮などの知識のない人のための研修などが必要となる。
JAKEHS会員増加にもつながる

C グループ

- 国際交流について
国際交流は外国語学習の真の目的だが、政治に左右されるのが現実。だからこそ草の根交流が大事
- 文化学習について
東京教育院の出前授業がうらやましい。全国の教育院でもやってほしい
文化理解のためには地域のいろんな行事に参加させ体験させる
教員自身も学ぶ必要があるので全国研修などで文化講習を
- シラバスについて
シラバスがあっても対象が違うからその通りには授業できない。形式的な面がある
それでもシラバスを作るときにゴールを決めてバックワードデザインで達成する目標を決めるべき
- 評価について
教員主体の評価ではなく、学生と教師と学生間のトライアングルで
- 学者の多様性について
第1言語が確立してないまたは小学校の教育をきちんと受けていなくて学習能力のない生徒が
増えている。インクルージョン、一人ひとりの学びの保証を
- セッション3について
教員養成課程がほしい

非常勤講師の待遇改善、第2外国語の科目としての地位確立のため、多言語・JACTFLとも連携する

D グループ

—国際交流について

保護者との承諾をもらうには管理職の協力が必要。担当教員が変わっても続けられるように、政治問題があってもテレビ授業などで持続可能な教育を

—文化学習について

文化院などのリソースを活用すべき

—シラバスについて

スピーチ大会など、授業で学んだことを実践できる場を作る。

各地域の拠点校など影響力のある学校の校長を日韓校長交流会などに参加させる

—評価について

シラバスを共有しよう。各学校の情報を共有しよう

—学者の多様性について

ニーズを分析しよう。生徒と教員の感覚にずれがある。

—セッション3について

大学、通信制などで教育免許を取得できるように、働きかける

JAKEHS 総会

西日本報告	3か月に1回実践報告・諸問題相談、教材の共有化（データ） 「童心画」ハングル書道ワークショップ紹介、 JAKEHSのロゴ募集中
東日本報告	今回の研修の報告は追ってメーリングリストで
会計報告	会費納入を4月1日以降に
次年度計画	来年度は関西にて全国研修会 再来年はJAKEHS 20周年。 何らかの形でこれまでを振り返り、次につなげたい。
閉会の辞	「つながっている」という実感。また日頃の悩み等を共有したい 持続していこう